

福生市議会

正和会だより

令和5年3月発行
発行：福生市議会
正和会
責任者：武藤 政義
第52号

●正和会ホームページ
<http://fussa-seiwakai.moo.jp/>
●メールアドレス
fussa-seiwakai@drive.ocn.ne.jp

福生市議会正和会

検索



ホームページ QR

安全・安心な市民生活を守るため全力を尽くします!!

ご挨拶

日頃より正和会の活動に対してご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めて3年が経ち、現在は円安や物価高騰など、決して良い社会情勢とは言えない状況であります。そのような中ではありますが、正和会全員元気に活動をしています。

本年4月よりこども家庭庁が設置されます。国や都においても子育て支援策が大きく変化しようとしており、福生市においても子ども政策課を新設し、更に子育て支援策を強化していこうという状況であります。正和会としても、昨年末に提出した「令和5年度福生市政に関する要望書」の中で「子育て支援策の更なる強化」ということを重点要望事項としました。子育てをしている市民の皆様の環境をより良いものにしていくよう強く求めていきます。

今期の任期が残り少なくなっていますが、任期満了まで正和会、一丸となって福生市のために頑張ってまいります。

福生市議会 正和会 会長 武藤 政義



▲議員の写真(左から)：山崎貴裕・佐藤弘治(総務会長)・小澤芳輝(会計)・清水義朋・武藤政義(会長)・申田金八・幡垣正生(政調会長)・小林 貢・石川義郎

令和5年度 東京都への要望

正和会では、快適な道路・歩道等の実現を目指し、市内の整備・補修・改善について要望しています。

《主な重点要望事項》

1. 福生都市計画道路3・3・3の1号新五日市街道線の拡幅整備事業促進 (国道16号線と五日市街道との交差点接続調整を含む)
2. 福生都市計画道路3・4・2号志茂中央線 (多摩橋通り) の整備促進
3. 福生都市計画道路3・3・30号武蔵野工業線 (産業道路) 延伸の促進 (地域住民への理解の促進)
4. 主要地方道29号立川・青梅線 (新奥多摩街道) の歩道整備及び電線類の地中化の促進
5. 主要地方道29号立川・青梅線 (奥多摩街道) 熊野橋歩道橋の点検・整備補修
6. 都道165号伊奈・福生線 (あきる野市側) の圏央道インターへのアクセス道路としての整備促進
7. 都道の道路照明灯のLED化の推進
8. 都道歩道の根上がりによる段差の解消とインターロッキングの緩み点検及び補修
9. 志茂中央線整備事業及び武蔵野工業線延伸事業の完成に伴う多摩橋通り原ヶ谷戸第二交差点周辺の渋滞対策
10. 主要地方道7号杉並・あきる野線 (睦橋通り) の渋滞緩和



▲産業道路の現在の様子

令和5年度 福生市政に関する要望

正和会では、令和5年度の市政に関する要望を下記のとおり行いました。

市民のみなさんが、安全で安心して暮らせる環境を更に進めてまいります。



▲加藤市長へ「市政に関する予算要望書」を提出

《主な重点要望事項》

1. 安全、安心なまちづくりの推進
 - (1) 新型コロナウイルス感染症対策の推進
 - (2) 風水害及び震災対策の強化
 - (3) 自主防災組織の支援強化
2. 少子高齢化対策
 - (1) 子ども・子育て支援事業計画 (第2期) の着実な推進
 - (2) 子ども家庭庁設置に伴う、子育て支援策の更なる強化
 - (3) 幼稚園、保育園等への支援の充実
3. 学校教育の充実
 - (1) 学力向上策の推進
 - (2) 新型コロナウイルス感染症に伴う児童・生徒の安全対策
 - (3) いじめ、不登校対策の強化
 - (4) 幼保小中の連携
 - (5) 特別支援教育の推進
 - (6) 通学路の安全対策 (交通安全・防犯・防災の観点から)
 - (7) 我が国と郷土を愛する心を育む教育の推進
4. 都市基盤整備
 - (1) 東福生駅のバリアフリー整備
 - (2) 福生駅西口地区再開発事業の支援
 - (3) 都市計画道路3・3・3の1号線 (新五日市街道線) の拡幅推進
 - (4) 都市計画道路3・4・7号線 (富士見通り) の整備促進
 - (5) JR踏切の安全な歩道の確保
5. 商工業対策の充実
 - (1) 新型コロナウイルス感染症に関わる経済対策の充実
 - (2) 中小商工業振興対策の強化
 - (3) 商工業の次世代への継承支援
6. 横田基地対策
 - (1) 新たな交付金の確保
 - (2) 低空飛行対策及びこれにより生じる諸課題への迅速な対応
7. その他
 - (1) SDGsを意識した施策への取り組み
 - (2) DXの更なる取り組み
 - (3) 福祉バスの利便性向上

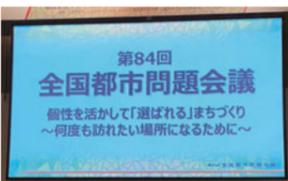
正和会

令和4年度視察&報告

第84回 全国都市問題会議

日時：令和4年10月13日(水)、14日(木)
会場：長崎県長崎市「出島メッセ」

第84回全国都市問題会議が3年ぶりに開催。テーマは「個性を生かして『選ばれぬ』まちづくり〜何度も訪れたい場所になるために〜」。キーワードは関係人口で、関係人口とは、短期間の交流や観光という関わり方ではなく、また長期間暮らし続ける定住という関わり方でもない。その間にあり新しい地域との関わり方。主報告「長崎市の魅力あるまちづくり」の中で長崎県長崎市長 田上富久氏は、今一度、まちの価値を見直すことで、人を引き付ける魅力と新しい時代の多様な都市の在り方が見えてくる。全国の先駆である「まちあるき」がきっかけとなり、住んでいる市民が気づかない地域資源の価値に気づき、シビックプライドの醸成につながっているとのことでした。



第84回 全国都市問題会議
個性を活かして「選ばれぬ」まちづくり
〜何度も訪れたい場所になるために〜

きなことを活かしたイベントが企画実施されている。2日目のパネルディスカッションの中では「人口減少先進地の挑戦〜ファンと共に取り組みまちづくり〜」で岐阜県飛騨市長 都竹淳也氏も関係人口について報告。移住はしなくとも、心を寄せ、力を貸してくれる方と交流を深めることが地域の力となる。そうした考えから2007年に「飛騨市ファンクラブ」を設立。会員数は2022年7月現在で9900人を突破しており、海外在住の方もいる。会員の中から自主的に飛騨市に来て、ボランティア活動を手伝う者もあらわれた。現在は、手伝ってもらいたい地域の課題をプログラム化してWEB上に掲載し、参加者を募っている。

今回のキーワードである「関係人口」という概念とその活用は「選ばれるまち」に必要な不可欠なもので、人口減に向かう基礎自治体が求める解決策の一助になるのではないかと、今後研究していきたい。

第17回 全国市議会議長会 研究フォーラム

日時：令和4年10月19日(水)、20日(木)
会場：長野県長野市ホクト文化ホール
地方議会には、経済社会



▲議長会研究フォーラム

の急速な構造変化を背景に、多様化する民意の集約と市政への反映が期待されています。デジタル技術の活用により議会と住民との間で新たなコミュニケーションの可能性が広がっています。

これらのことから、今回のフォーラムでは、「デジタルが開く地方議会の未来」をテーマとし、地方議会のデジタル化の意義と課題や、現場の取組みなどについて、基調講演やパネルディスカッションによる研修を受けました。基調講演では、日本の経済は1970年代から成長していない。特に東京の経済が成長していないということでした。出生率は最下位で、人口は増えているものの、GDPは下がっている。諸外国と比較すると給料が安いという現実の中、選ばなければ仕事はいくらでもありますが、人手不足の状態が続いているのも大きな問題である。こういった状況を打破していくにはDXの推進が大きな鍵となってくる。と講演されました。

また、パネルディスカッションでは、「選ばれるまちづくりに向けた都市自治体のアプローチ」と題して討論がされました。これらの研修内容では、「デジタル化を進めることで経済は必ず良くなる」ということや、「人々の生活をより良いものへと変革することこそ、住民の福祉の増進、つまり、自治体の大きな目的なのである」とのことでした。できることから少しずつ挑戦していき、みんなで力を合せて議会のデジタル化を進めていかなければならないと、あらためて実感しました。

入間川にこにテラス及びジョンソントン

日時：令和4年8月23日(水)
場所：埼玉県狭山市・入間市 狭山市が、入間川沿いの公園に民間の協力を得て、令和3年に、「入間川にこにテラス活性化事業」として、テラス(スターバックス)を公園の一角にオープンしたものです。

スターバックスが新店したことにより、公園利用者や近隣住民などは、居心地のよい空間として利用しているように見受けられました。公園の新たな活用方法の取組み事例として、福生市の今後の市民サービス等の向上の参考にしてまいります。



▲ニコニコテラス

「ジョンソントンタウン」とは、国道463号沿いにある元米軍住居地域跡地全体のことをいい、民間事業者が統一された街並みとして再整備したものです。米軍ハウス23棟、平成ハウス35棟、日本家屋4棟、セキスイM7棟、その他10棟の合計79棟(2017年



▲ジョンソントンタウンにて

西多摩衛生組合 環境センター

日時：令和4年9月26日(月)
西多摩衛生組合環境センターは、青梅市、福生市、羽村市及び瑞穂町の住民生活を支える重要な一般廃棄物処理施設(清掃工場)です。平成24年に「西多摩衛生組合環境センター」長寿命化計画」が策定され、諸事業が推進される中で、今後の20年を見据えた取組みが行われています。



▲西多摩衛生組合環境センター視察の様子

その中の計画に基づく「組合運営の方向性」では更に①地域住民等の理解と協力②環境センターの延伸・強靱化対策③フレキシブルランド西多摩の維持・改修対策④災害対策の強化と新たな価値の創出など4つの活動方針が示されました。この①の具体策として「令和3年度西多摩衛生組合環境センター環境学習拠点(見学者コース更新)整備事業」が決定され、令和4年6月1日にリニューアルオープン。今回はこの見学者コースを中心に視察。「西多摩衛生組合のあゆみ」「環境センターの新たな役割」と取り組み「ゴミの種

類と分別・3R」などその他多くのパネルが展示されていた。職員の話によると小学校4年生の社会科見学では、主に6月、10月に見学が行われ通常では1500名の児童が来所。コースの整備は、外部発注ではなく、組合職員によるワーキンググループがコンセプト、展示ストーリー、ゾーニングを考案し、小学校低学年から高齢者及び障害者等、多様な来館者に対応できるコースの整備を自ら行ったとのことでした。これまでの事業をどのように捉え、未来に向け、市民にどの様に伝えていくか、新たな環境都市を形成するために必要なのは、持続可能な社会への市民と行政の深い理解と熱意、そして行動力であると改めて感じました。

旧ヤマジユウ 田村家住宅

日時：令和4年12月21日(水)
明治35年に建造された田村家住宅は、酒造業を営む田村家の分家として起こったとされ、三代に亘り現在の場所で生活をしていました。

ヤマジユウというのは屋号であり今の紋が屋根の瓦や蔵などに見ることができず。平成24年に所有者が亡くなられた後、文化的価値が認められ、福生市が取得、保存することとなり、整備を行い、現在、一般公開されています。

明治の当時の様子をうかがえる貴重な建物が残ることとは有益なことであるとともに、以前の福生は養蚕の盛んな土地でもありました。蔵もまだ現存しており、その用途も多様であったとの調査記録も残っています。貴重な有形文化財が保存され、福生市の財産として、多くの方々に見学や教育教材としても活用されています。今後、貴重な文化財を残すよう取組んでまいります。



▲不登校特例校分教室を視察



▲旧ヤマジユウ田村家住宅

編集後記

今回の正和会だよりでは、行政視察に関する内容を多く掲載しました。コロナ禍により、実施が困難でしたが、漸く、会派や委員会等の視察もできるようになりました。日本には、1718の市町村があります。少子高齢社会の到来、そしてコロナ禍、さらにはロシアのウクライナ侵攻による世界経済への影響等により、程度の差こそあれ、基礎自治体の運営は、何処も大変厳しい状況です。

その様な中、それぞれの自治体は、知恵を絞って、限られた資源を有効に活用し、市民サービスの向上に資する取組みを行っています。これに学び、地元とそのエッセンスを活かす。ここに行政視察の要諦があります。一見すると地元には関係のなさそうな取組みの中にも、参考になる市町村の取組みは、数多くあります。

苦心の末に生まれた遠いところの先進事例が、別のところの自治体に活かされ、市民満足や地域の再生につながる。一つの優れた施策は、多く自治体を救うのです。

地に足をつけ、広い視野をもって学び続けることが、これからの議員には必要です。研鑽を積み、市政発展のために、正和会、一丸となつて力を尽くします。

- 編集委員長 佐藤 弘治
委員 小林 貢
委員 石川 義郎

